

(41)

あなたはあなたのままでいい
あなたはひとりではない
あなたには力がある

吃音とともに豊かに生きる



絵・加藤 恵

両親指導の手引き書

NPO法人・全国ことばを育む会
<http://www.npokotoba.jp>

はじめに　この冊子の使い方

「どもり始めるのも、どもり続けるのも原因は親ではない。どもる子の特別な子育てはない」

「どもることそれ自体は何の問題もない、吃音を否定することで初めて問題になる」

「吃音は自らの努力によってではなく、生活の中で自然に変わる」

僕の人生は次の3期に分けることができます。

1期 3歳から小学2年生の秋まで 吃音に悩むことも困ることもなく、平気でどもっていた。

2期 小学2年生の秋から21歳まで 吃音を否定し、吃音の問題が大きくなつた。

3期 21歳から現在 吃音に真剣に向き合い、吃音肯定し幸せに生きている。

この僕の大きな変化には、吃音症状のコントロールは関与していません。治ることを諦め、吃音を肯定して生きることで人生は大きく変わりました。吃音を否定せず、肯定することが何よりも大事です。吃音否定が前提の「吃音を治す・改善する」情報は世界にあふれていますが、吃音肯定が前提の取り組みはほとんどありません。僕のこの少数派の意見に、違和感や反発を覚える方がおられるかもしれません。セカンドオピニオン、選択肢のひとつとしてお読み下さるとうれしいです。

これまでの吃音の取り組みは、専門家が知識・情報を独占し、方向を示してきました。僕は当事者、保護者、専門家が情報を共有し、相談して吃音の課題に一緒に取り組むべきだと考えています。少しつづきにくいところがあるかもしれませんが、必要だと考えた情報はお伝えします。

- ①全ての人に読んでいただきたい基本前提
- ②保護者の皆さんへ
- ③ことばの教室の先生へ
- ④通常の学級の先生へ

この4部構成になっていますが、最初から順番に読む必要はありません。目次を見て読みやすそうなところから読んで下さい。「保護者の皆さんへ」は読みやすいと思います。

目 次

はじめに この冊子の使い方

I 章 吃音肯定の取り組みの基本前提	1
1 吃音肯定へ 物語を変えた人々	2
2 変えることができるもの	3
3 治るとはどういうことか	4
4 治療効果の研究	6
5 伊藤伸二の当事者研究	7
6 アメリカ言語病理学の歴史	10
II 章 保護者の皆さんへ	16
1 吃音の原因探しは、もうやめましょう	17
2 吃音はほとんど一過性のものとは言えない	18
3 吃音に悩む人の問題とは、劣等コンプレックス	18
4 吃音を生き抜く力を育てる	19
5 子どもと対話する	22
III 章 ことばの教室の先生へ	30
1 レジリエンス	31
2 防災教育と吃音	32
3 エビデンス・ベースドよりナラティヴ・ベースド	33
4 「脆弱性モデル」から「レジリエンスマodel」へ	33
5 レジリエンスを阻むもの	34
6 子どもと取り組むレジリエンス	37
IV 章 通常の学級の先生へ	44
1 吃音について理解する	45
2 どもる子どもを理解する	46
3 基本的には特別扱いはしない。でも、相談してほしい	48
資料 第1回 親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会 報告	51

あとがき

自分にとって不都合なものは、克服してこそ人間の価値があるとする、西洋文化に比べ、日本は受け入れる文化があります。あの東日本大震災でさえ、子どもたちは、自然災害は誰の責任でもない、仕方がないと受け止めていると、被災地にスクールカウンセラーとして入った臨床心理士の国重浩一さんから聞きました。人には、危機の中から立ち上がり、回復するしなやかな力「レジリエンス」があります。たくさんの子どもたちと出会って、時にどもることを真似されたり、からかわれたりしながらも、自分の力で学校の環境を変えていくなど、どもる子どもたちの、レジリエンスの力を感じます。

病気が治っていくことは自然治癒だと言われています。吃音症状も幼児期だけでなく、大人になっても自然に変わっていきます。自力で克服するのではなく、この人間社会を信じて、どもりながらも日常生活で話し続けることで、自然に変わるのでです。僕は人間関係の中で傷つきました。しかし、その傷が癒え、僕が変わっていけたのもまた、人間関係の中でした。

人が変わるのは、日常の人間関係の中でしかあり得ません。恐れや不安があっても、子どもが生活の中で話していくのを支えるのが親の役割です。

「生きていくのは、苦しいときもあるけれど、基本的には楽しい」

「人間は、社会は、信頼できる」

親がこのように信じて、自分の人生を豊かに楽しく生きることが、子どもに大きな勇気を与えます。子どもの将来が不安なのは、これまで「吃音否定の物語」に影響を受けすぎたからです。吃音は、意志や努力で治るはずだ、軽くなるはずだと根拠のない期待ではなく、多くのどもる人が豊かに生きてきたを根拠に、楽観的な見方で子どもと関わりましょう。

著者紹介

伊藤 伸二 プロフィール

大阪教育大学非常勤講師（言語障害児教育）、龍谷大学非常勤講師（ソーシャルワーク演習）、言語聴覚士養成の専門学校数校で吃音の講義を担当。日本吃音臨床研究会会長。国際吃音連盟顧問理事。

著 書

『吃音の当事者研究』

『ストレスや苦手とつきあうための認知療法・認知行動療法～吃音とのつきあいを通して』

『話すことが苦手な人のアサーション～どもる人とのワークショップの記録』

『やわらかに生きる～論理療法と吃音に学ぶ』（金子書房）

『親、教師、言語聴覚士が使える、吃音ワークブック』

『どもる君へ いま伝えたいこと』

『知っていますか？どもりと向きあう一問一答』（解放出版社）

『治すことにこだわらない、吃音とのつき合い方』（ナカニシヤ出版）など多数。

吃音ホットライン 伊藤伸二が担当する電話相談 072－820－8244 (9:00～21:00)

日本吃音臨床研究会のHP <http://kituonkenkyu.org/>

平成25年3月31日発行

著 者 伊 藤 伸 二

発行所 特定非営利活動法人 全国ことばを育む会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-1

全国たばこビル6F

発行人 特定非営利活動法人 全国ことばを育む会

理 事 長 加 藤 碩

印刷所 有限会社 ニッシングラフィック社

〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-12

松下ビル5F

*本冊子追加ご希望の方は、下記へお申し込みください

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-1 全国たばこビル6F

特定非営利活動法人 全国ことばを育む会

FAX 03-6459-0989

e-mail : npo-hagukumukai5108@waltz.ocn.ne.jp